

「進むNGOのグローバルな連携」

CSOネットワーク 共同事業責任者 今田 克司

グローバル化の波に対抗するため、NGOのあいだでも国際的な連帯の機運が高まっている。とくにNGOの政策アドボカシーにおける役割が認知されるにつれ、ゆるい連携により発言に重みをもたせる試みが成功している。2005年を戦略的に重要な年と考えるNGOコミュニティは、いままさに貧困撲滅キャンペーンを加速させようと動き始めている。

CSOネットワーク (www.csonj.org)

国際協力・開発の分野でCSO (市民社会組織) のグローバルなネットワーク化を進める。おもな活動に、CSOや国際協力に関する調査・研究、国内外のCSO・自治体職員向けの研修実施、CSOの役割に関する情報発信など。

現代のNGOが抱える危機意識は、自分たちがいつの間にか世界政治の表舞台に引きずり出され、手に余る仕事を押し付けられているという感覚と無縁ではない。冷戦の終焉と東欧諸国などの民主化、グローバル化と貧富の差の拡大、世界各地での内戦や紛争の激化、そして9.11に端を発したアフガニスタンとイラクでの戦争。劇的に変化する世界のなかで、人道危機が起これば危険を冒して出かけていく一方、各地で緊急救援から復興・開発への移行に事業ベースで携わり、ドナー機関と地域の人びとの橋渡し役を務める。アカウントビリティや評価の波にさらされ、組織づくりにも腐心しなければならぬし、NGOの目立った動きが気に入らない層からは、「誰の意思を代表しているのか」と、その正統性に疑念をはさまれる。特定のドナーとあまり近くなりすぎると自立性を疑われ、広い層からの支持を得るには広範な広報活動を行わねばならないが、そのための費用を捻出する財布はなかなか見つからない。

このように、より少ない資源でより多くのことをこなさなければならなくなった現代のNGOが、いま力を入れている分野のひとつが、グローバルな連帯の強化だ。たとえば、ケア、ワールド・ビジョン、フォスター・プランらの“多国籍”NGOは、自分たちのもっているグローバル・ネットワークを最大限活用しようと、各国オフィス間の情報交換とノウハウの共有を以前にも

増して活発に行うようになってきている。これら多国籍NGOの形態は、団体名を共有する各国のオフィスがそれぞれ独自の意思決定機能をもち必要に応じて連携する「独立型」、全体の調整や基準づくりの権限をもつ国際オフィスが各国オフィスの分担金の負担などによって支えられる「連合型」、国際オフィスと各国オフィスが本部・支部としてつながれ、中央がすべての意思決定の権限をもつ「統合型」の3つのタイプ、あるいはそれぞれの中に類型を設けた5つのタイプに分けられる。分権を重んじるNGOの文化からいって、最後の「統合型」の団体は少ないが、時代の要請から連携の必要性が高まり、オックスファムや国境なき医師団 (MSF)、セーブ・ザ・チルドレンなどは「独立型」から「連合型」に移行しつつあるようだ。

さらに、それぞれのNGOのネットワークを超えて、こういった多国籍NGOが、とくにアドボカシーの分野で連携しようという動きも強まっている。90年代以降、一連の国際会議でNGOの発言権が強まってきたことなどに象徴されるように、NGOは国際的な舞台上で活発なアドボカシーを展開し始めた。そういった場では、単体のNGOとして発言するよりも、複数のNGOが特定の問題の解決をめざしてゆるい連携を組み、共通のメッセージを発することで、発言に附随する重みが増している。国連安全保障理事会がNGOを招いて人道支援問題に関する意見を初めて聴取した

のは1997年だった。招かれたのは、ケア、オックスファム、MSF、国際赤十字の4団体。NGOはそれぞれ独自の政策アジェンダをもっているためにこういった場での意見表明を調整するのは難しいとの懸念もあったが、思いのほかこれらの団体が共通のメッセージを発することができたため、これをきっかけに国連の場でのNGOの発言は増えている。連携の動きは多国籍NGOにとどまらず、1997年のノーベル平和賞受賞でひとつの頂点に達した地雷廃絶キャンペーンや、債務帳消し運動のジュビリー2000なども、NGOが連携を通じて影響力を行使することを学んだ端的な事例であろう。

このように連携を進めてきたNGOは、来年2005年を国際的に重要な年と捉えてさまざまなキャンペーンを始動させている。来年はイギリスがG8サミット (主要国首脳会議) の開催国となるが、すでにブレア首相は世界、とくにアフリカの貧困問題を主要な議題に据えようとしている。また来年は、2015年までに世界の貧困を半減させることなどの数値目標をもつミレニアム開発目標の中間レビュー年になっている。これを好機と捉えるNGOの動きのひとつに、G8各国のNGOのネットワーク組織が集まり、サミットなどの場にNGOのメッセージを出していこうというものがある。今年2月に初めて集まったこれらのネットワーク組織は、第2回会合を9月末にパリで開く予定だ。